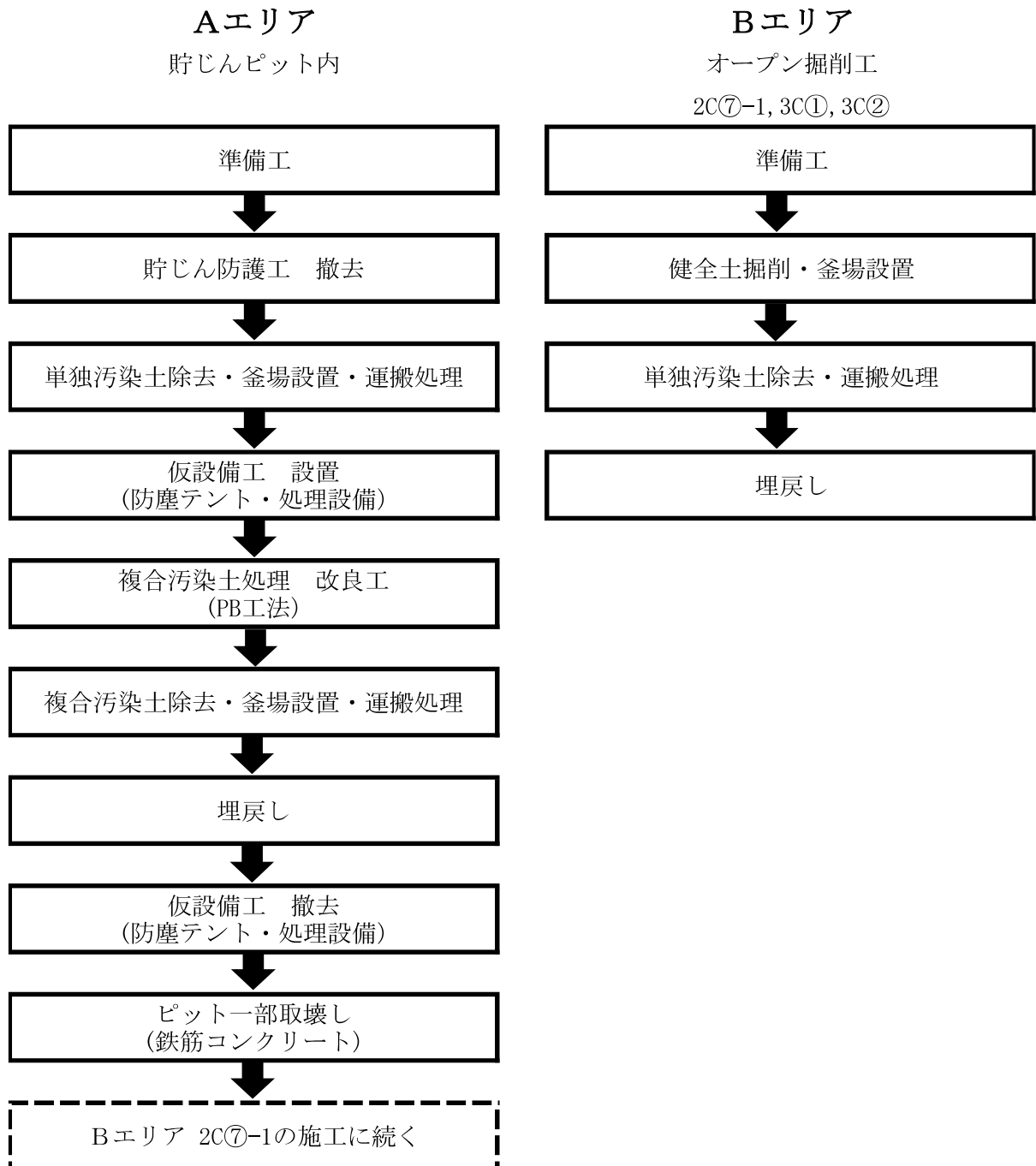


### 3 施工記録

#### 1. 搬出土壤範囲及び数量

名称		種別	面積 m <sup>2</sup>	確認深度 GL- (m)	単独汚染土 (計画数量) m <sup>3</sup>	単独汚染土 (実施数量) m <sup>3</sup>	複合汚染土 (計画数量) m <sup>3</sup>	複合汚染土 (実施数量) m <sup>3</sup>
Aエリア	貯じん ピット	複合汚染土 鉛及びその化合物 砒素及びその化合物 ベンゼン ダイオキシン類	60.4	3.0~8.18			232.0	316.9
		単独汚染土 鉛及びその化合物	89.7	0.0~3.0	183.9	183.9		
Bエリア	3 C①+②		56.0	0.0~3.85	138.4	138.4		
	2 C⑦-1		55.0	0.0~2.0	153.2	153.2		
Cエリア	3 B②-1		57.4	0.0~3.0	170.2	170.2		
Dエリア	2 C⑦-2		55.0	5.0~9.0	249.6	273.1		
	3 B②-2		27.5	4.6~9.6	168	230.9		
合計				401.0		1063.3	1149.7	232.0

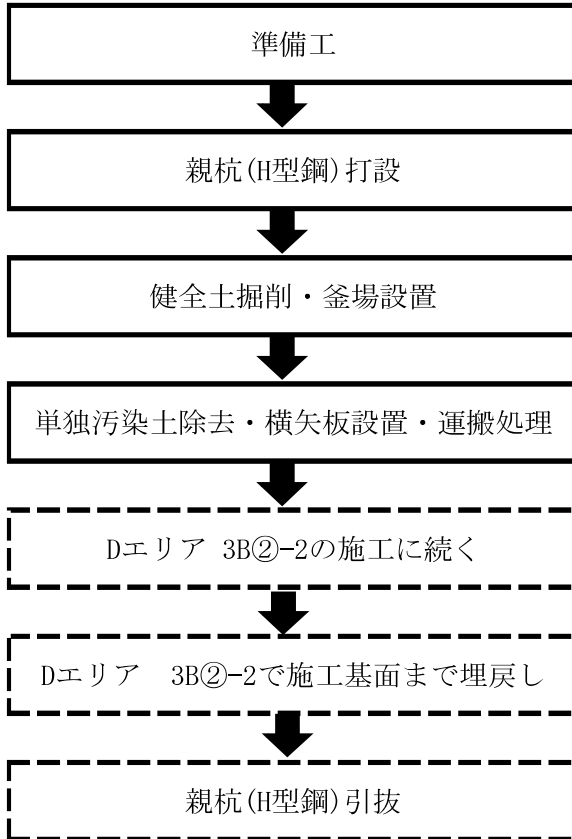
## 2. 施工フロー



### Cエリア

親杭(H型鋼)横矢板土留工

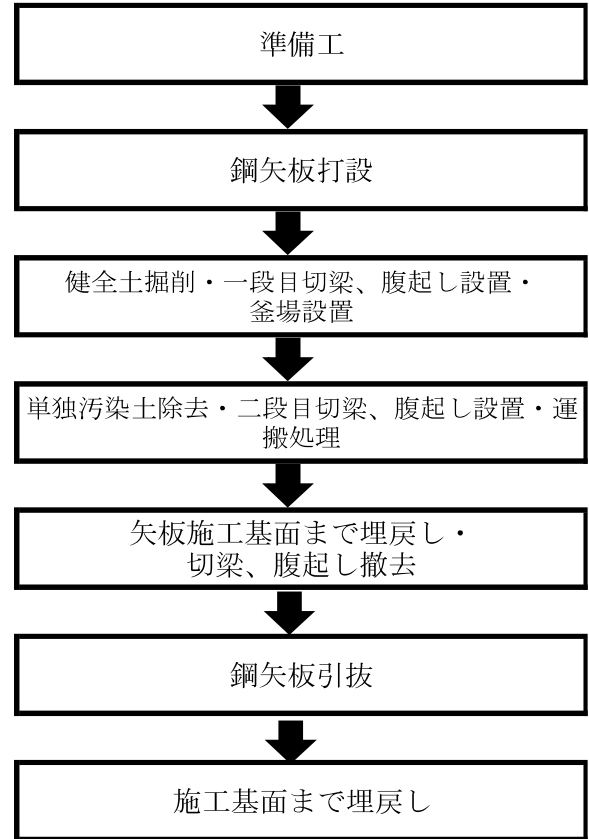
3B②-1



### Dエリア

切梁腹起し鋼矢板土留工

2C⑦-2, 3B②-2



1) Aエリア(貯じんピット) 貯じんピット内：単独汚染土

1-1) 準備工

調査に基づき汚染土の範囲を明示した。

1-2) 貯じん防護工 撤去

貯じん防護工の撤去を行った。

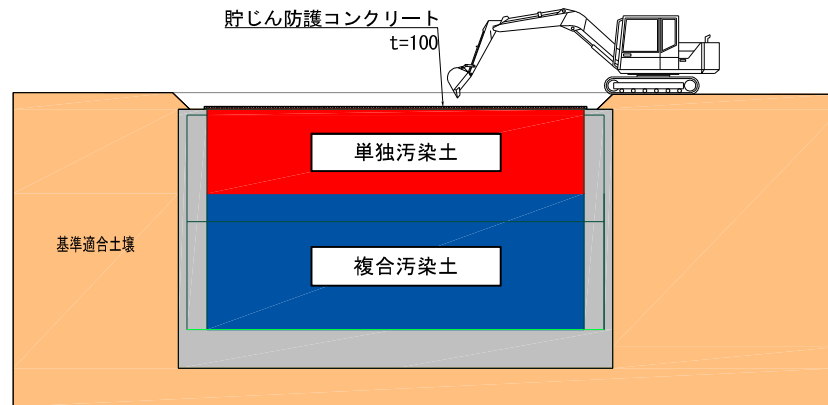


図1-1) 貯じん防護コンクリート撤去概念図

1-3) 汚染土除去・運搬処理

基準不適合土壌の掘削を行った。

掘削した土壌が飛散するのを防止するためバックホウから直接運搬用のダンプトラックに積込みを行った。積込み時等でタイヤ等に汚染土壌が付着した時は、搬出前にスコップやほうき等でタイヤの洗浄を行った。

積込み箇所は、鉄板にて養生とした。

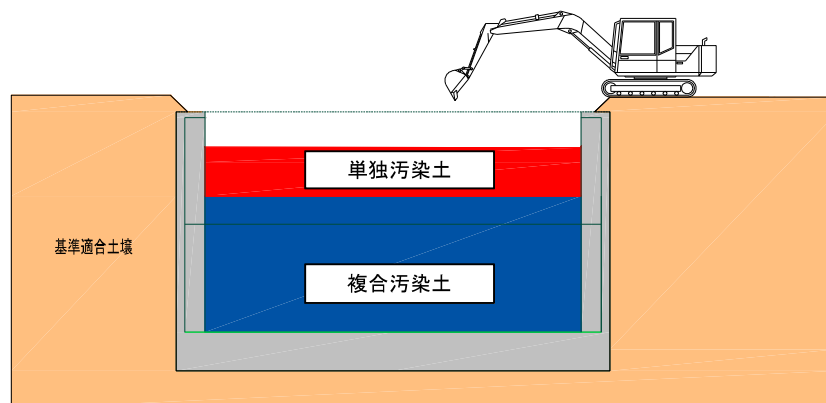


図1-2) 汚染土除去概念図

## Aエリア(貯じんピット) 貯じんピット内：複合汚染土

ダイオキシン類基準不適合土壌の処理に関するガイドラインに従い  
飛散防止対策を講じた。

### 1-4) 仮設備工 設置(防塵テント・処理設備)

汚染土掘削時の飛散防止対策として、防塵テント及び集塵機(HEPAフィルター)を設置した。

積込箇所は、アスファルト舗装にて養生した。

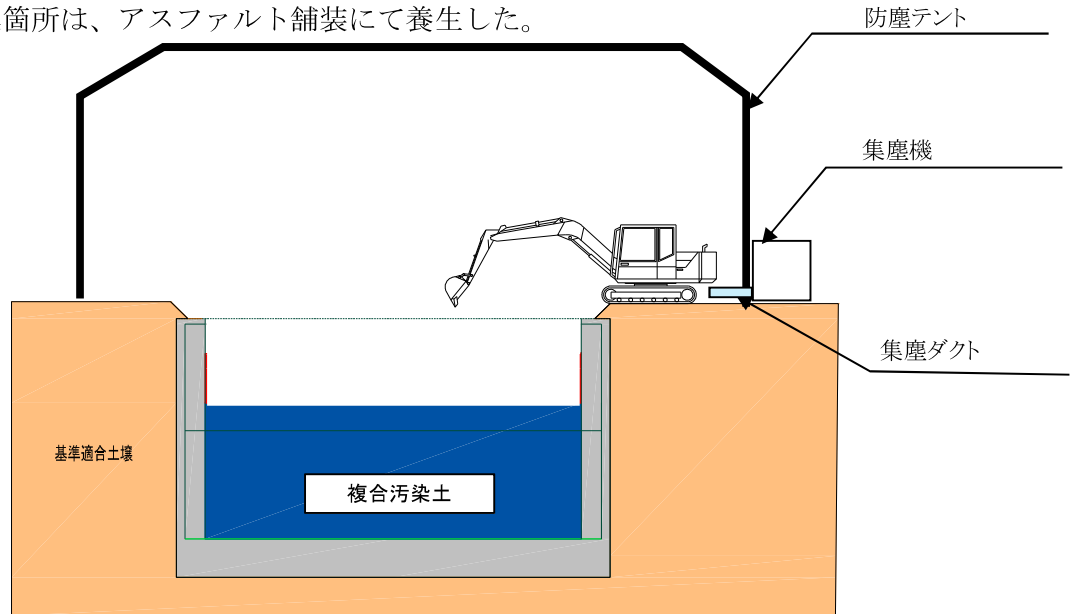


図1-3) 防塵テント

1-5) 複合汚染土処理 改良工(PB工法)

汚染土掘削時の泥状対策として、パワーブレンダー工法を用いてセメント改良攪拌を行い泥状化した土砂の固化を行った。



図1-4) パワーブレンダー工法による施工状況写真

1-6) 複合汚染土除去・運搬処理

掘削した汚染土は内袋付大型土嚢にいれ、大型トラックに積み込んだ。掘削時の雨水対策は防塵テント設置のため必要ないが、大型土嚢に入れた汚染土は雨水浸透防止のため、ブルーシートにて養生した。



図1-5) 大型土嚢作成状況

### 1-7) 埋戻し

掘削し、出来形を確認したのち基準適合が確認された土壌で、貯じんピットの躯体取り壊しの施工基面まで埋戻しを行った。



図1-6) 埋戻し概念図

### 1-8) 仮設備工 撤去(防塵テント)

防塵テントの撤去を行った。



## 2) Bエリア(2C⑦-1, 3C①, 3C②) オープン掘削工：単独汚染土

### 2-1) 準備工

準備工として、基準不適合土壌の掘削や土留工等の補助工法を施工するにあたり支障となる土間コンクリートの撤去を行った。

また、コンクリート殻等に付着した基準不適合土壌は、区域指定区画内でほうき等を使い、きれいに落としてからダンプトラック等で搬出した。

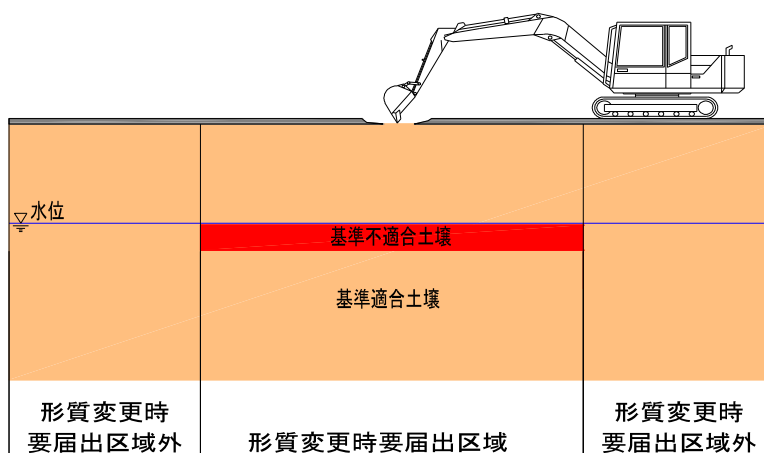


図2-1) 撤去概念図

### 2-2) 健全土掘削・釜場設置

基準不適合土壌の深さが地下水位より浅い区画についてバックホウで掘削を行った。

所定の措置深度を掘削した後、区域内の地下水は釜場を掘り、ポンプアップしノッチタンクに移した。掘削した土壌が飛散するのを防止するためバックホウから直接ダンプトラックに積み込みを行った。

積み込み時等でタイヤ等に汚染土壌が付着した場合は、搬出前にスコップやほうき等でタイヤの洗浄を行った。

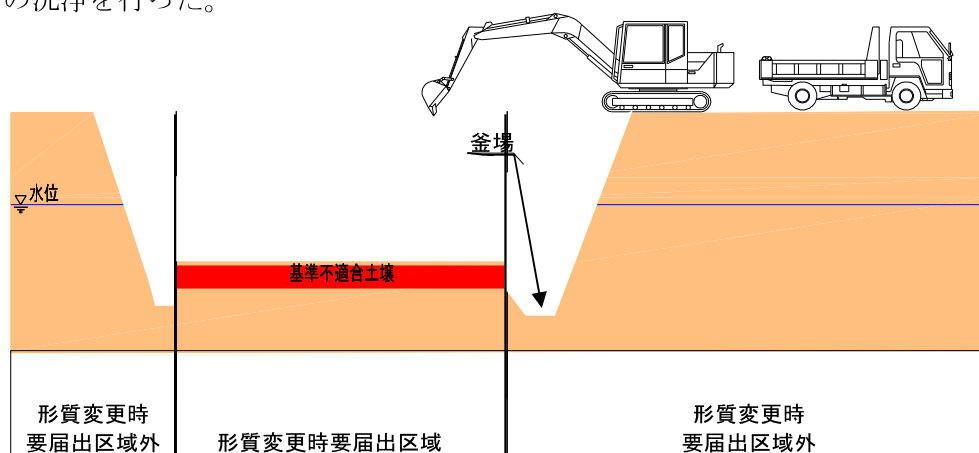


図2-2) 健全土掘削・釜場設置概念図

2-3) 単独汚染土除去・運搬処理

※Aエリア・1-3) 参照

2-4) 埋戻し

掘削し、出来形を確認したのち基準適合が確認された土壌で埋戻しを行った。  
 粉塵等の発生を抑制するため適宜散水を行った。

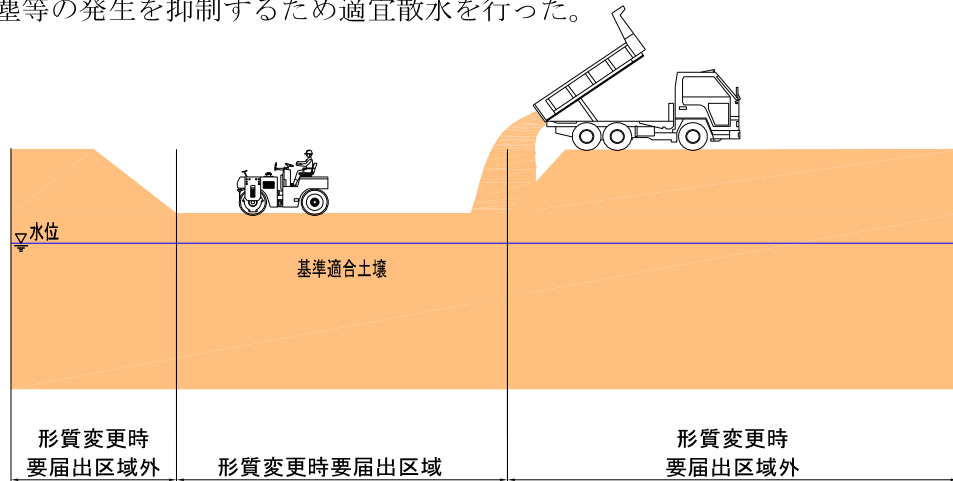


図2-3) 埋戻し概念図

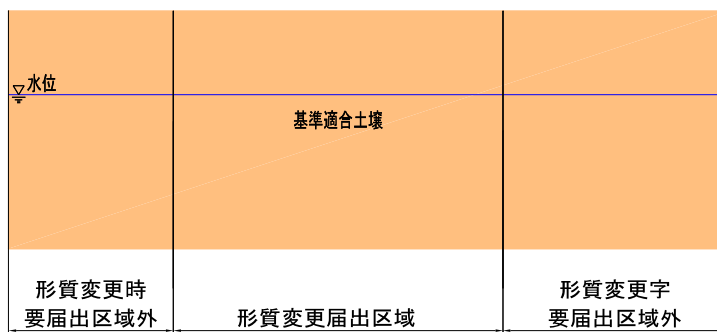


図2-4) 埋戻し完了概念図

3) Cエリア(3B②-1) 親杭(H型鋼)横矢板土留工：単独汚染土

3-1) 準備工

調査に基づき汚染土の範囲を地表に明示した。

3-2) 親杭(H型鋼) 打設

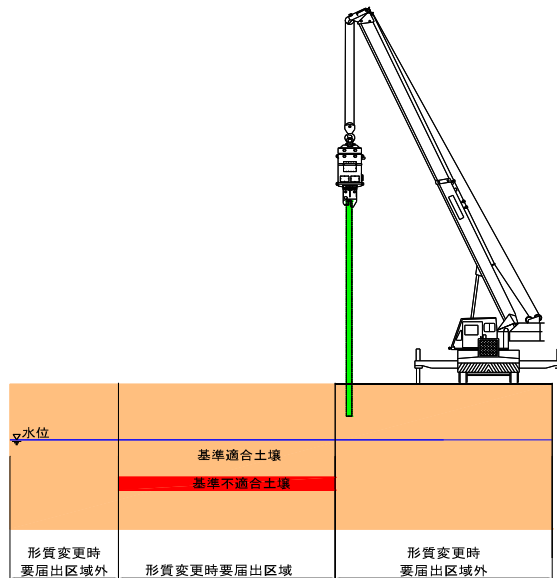


図3-1) 親杭(H型鋼) 打設概念図

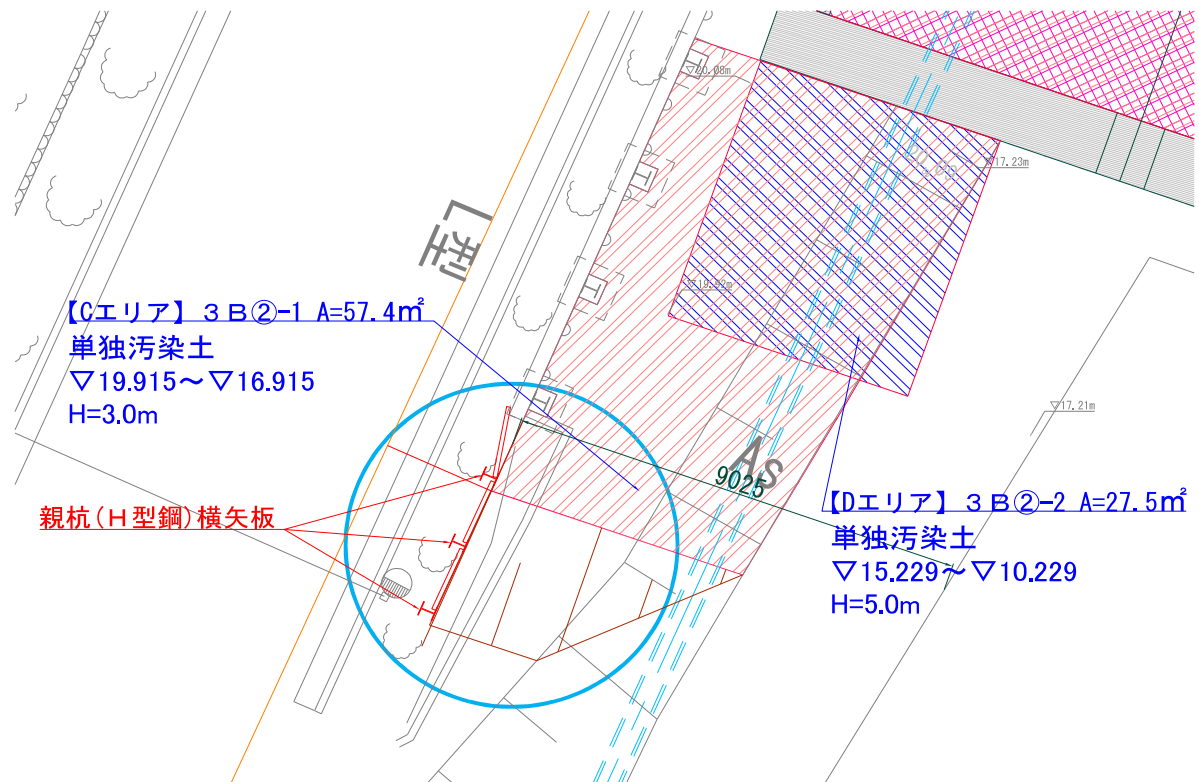


図3-2) 親杭(H型鋼) 打設位置図

3-3) 健全土掘削

※2) Bエリア 2-2) 参照

3-4) 単独汚染土除去・横矢板設置・運搬処理

周辺地盤への影響を防止するため、横矢板を設置した。  
※汚染土除去・運搬処理については、Aエリア・1-3) 参照

3-5) Dエリア (3B②-2) の施工に続く

後述する。

3-6) Dエリア (3B②-2) で施工基面まで埋戻し

3-4) で設置した横矢板の撤去を行った。

3-7) 親杭(H型鋼)引抜

Dエリア (3B②-2) での埋戻しの際に、3-2) で設置した親杭の撤去を行った。

4) Dエリア(2C⑦-2, 3B②-2) 切梁腹起し鋼矢板土留工：単独汚染土

4-1) 準備工

調査に基づき汚染土の範囲を地表に明示した。

4-2) 鋼矢板打設

地下水位より深い深度まで基準不適合土壤がある区画の周りに鋼矢板を打設した。鋼矢板は、打設精度を考慮し、区画線より約200mm区域外位置に打設を行った。

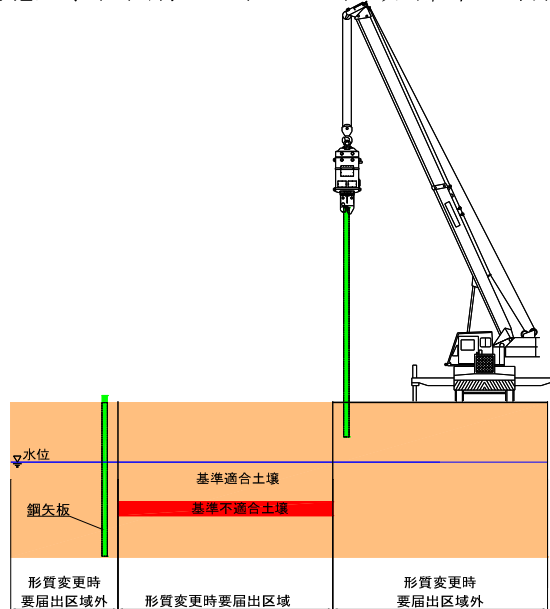


図4-1) 鋼矢板打設概念図

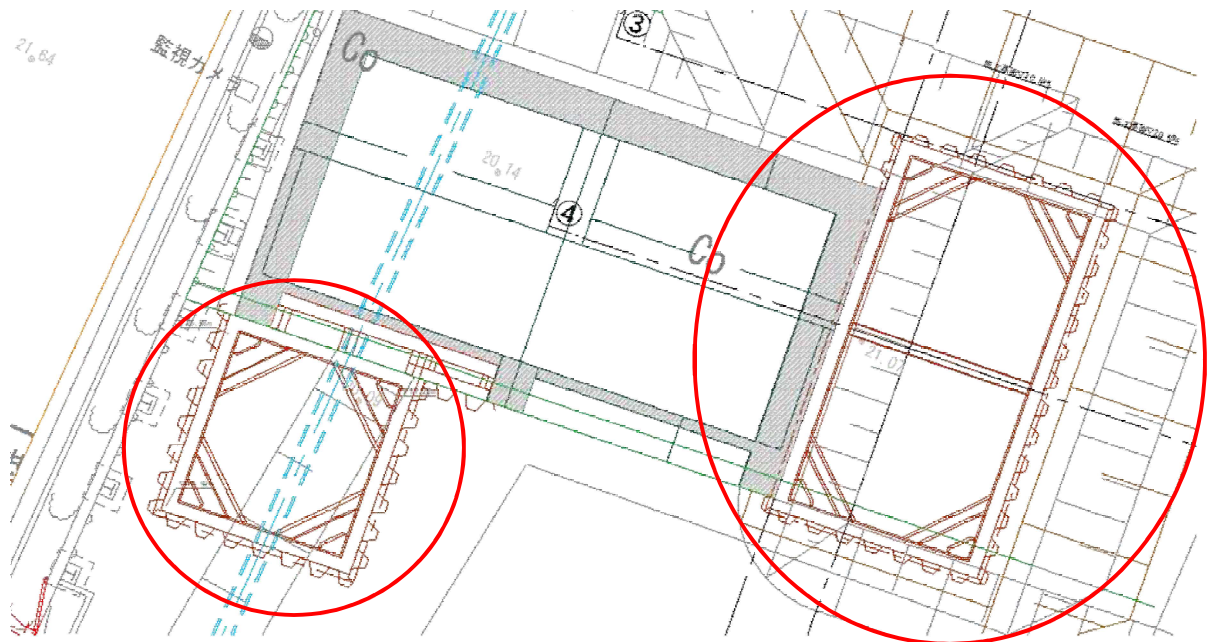


図4-2) 鋼矢板打設位置図

#### 4-3) 健全土掘削・一段目切梁、腹起し設置

掘削をしつつ切梁、腹起し設置を行った。この設置は掘削に際して周辺地盤への影響を防止するために行った。

※掘削については、2) Bエリア・2-2) 参照

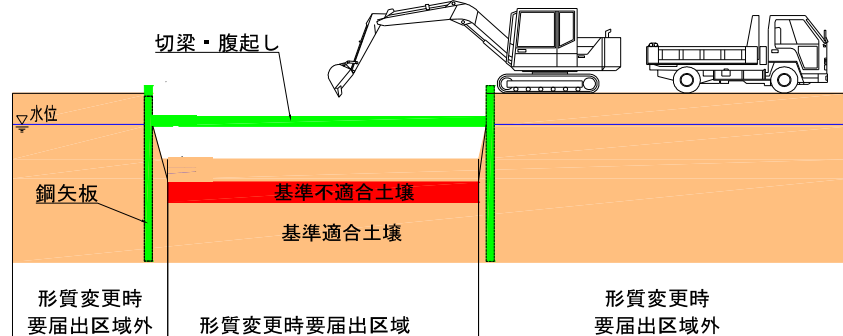


図4-3) 健全土掘削概念図

#### 4-4) 単独汚染土除去・二段目切梁、腹起し設置・運搬処理

※Aエリア・1-3)、Dエリア・4-4) 参照

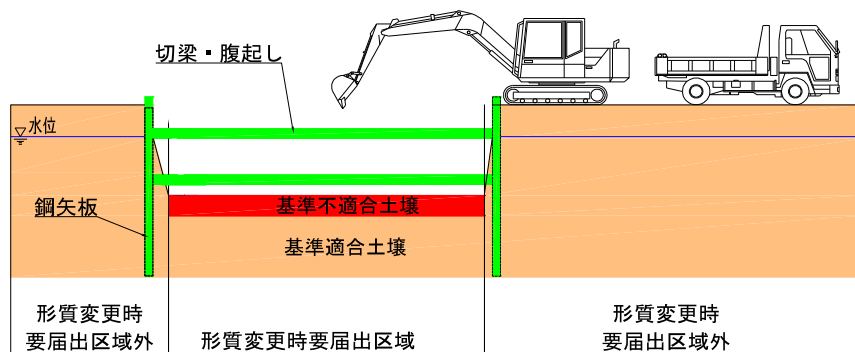


図4-4) 基準不適合土壌撤去概念図

当初は釜場排水を計画していたが実際には、地下水が無く窯場揚水は必要無かった。

4-5) 矢板施工基面まで埋戻し・切梁、腹起し撤去

埋戻しの際に、4-4)、4-5)で設置した切梁・腹起しを撤去した。  
※埋戻しについては、Bエリア・2-4)参照

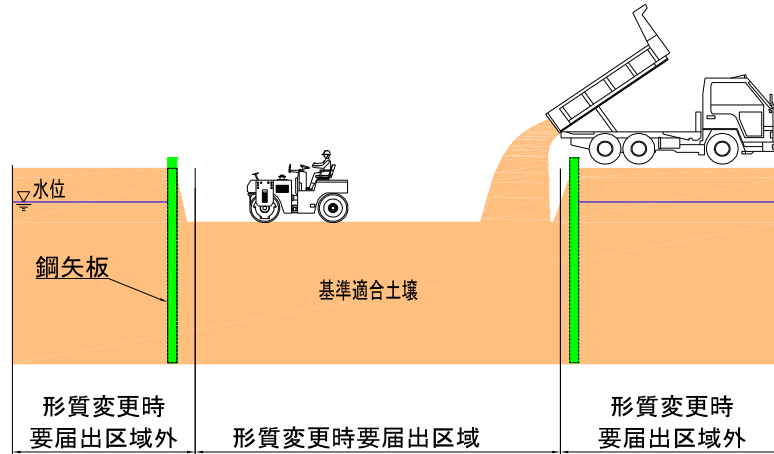


図4-5) 埋戻し概念図

4-6) 鋼矢板引抜

4-2)で設置した鋼矢板の撤去を行った。

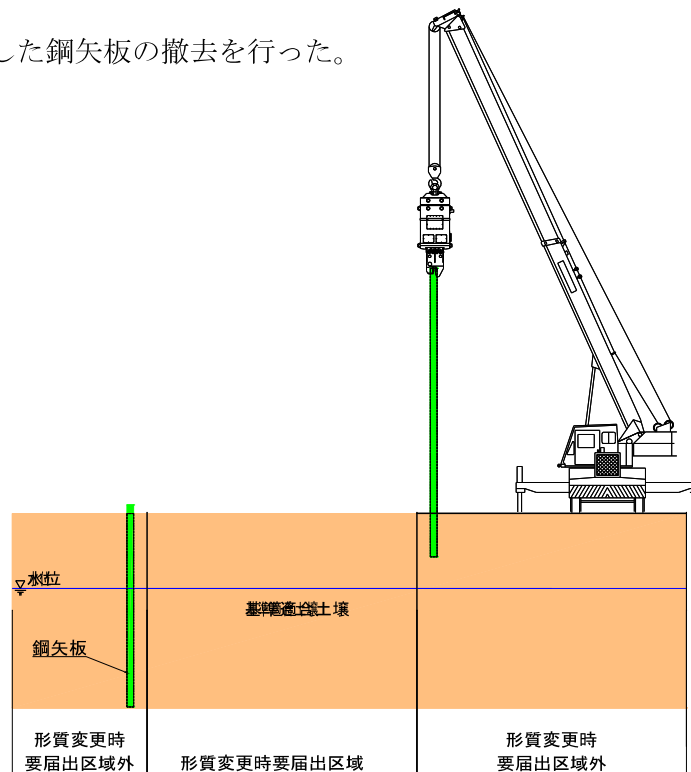


図4-6) 鋼矢板引抜き概念図

4-7) 施工基面まで埋戻し

※Bエリア・2-4)参照